UICでの活動

鈴木　崇正
Takamasa Suzuki
UIC出向
（前 情報通信技術研究部
情報解析研究室 主任研究員）

はじめに

Union Internationale des Chemins de fer，略称UICは，世界各国の鉄道事業者や研究機関などを会員とする組織で，英語ではInternational Union of Railways，日本では国際鉄道連合とよばれています。2022年には，1922年10月にパリで開催された設立総会から100周年を迎えました。現在は82か国219会員[1)]が加盟し，日本からはJR東日本，JR東海，JR西日本，JR貨物，鉄道総研が会員となっています。

UICの本部（図1）は，エッフェル塔やセーヌ川からも近いフランス・パリ15区に立地しています。本部ビルには，UICスタッフの執務室のほか，UIC総会や各種国際会議などに使用される会議場が設けられています。スタッフ数は出向者を含め約130名です。

UICの活動は，「鉄道システム」「旅客」「貨物」など多様な分野を対象とした，各会員が参画するフォーラム，プラットフォームが中心となって進められています。各フォーラム，プラットフォームでは，具体的な細分野・個別課題に対応した多数のセクターやプロジェクトが設置され，ノウハウ収集，技術開発，成果の普及，会

図1　UIC本部建物

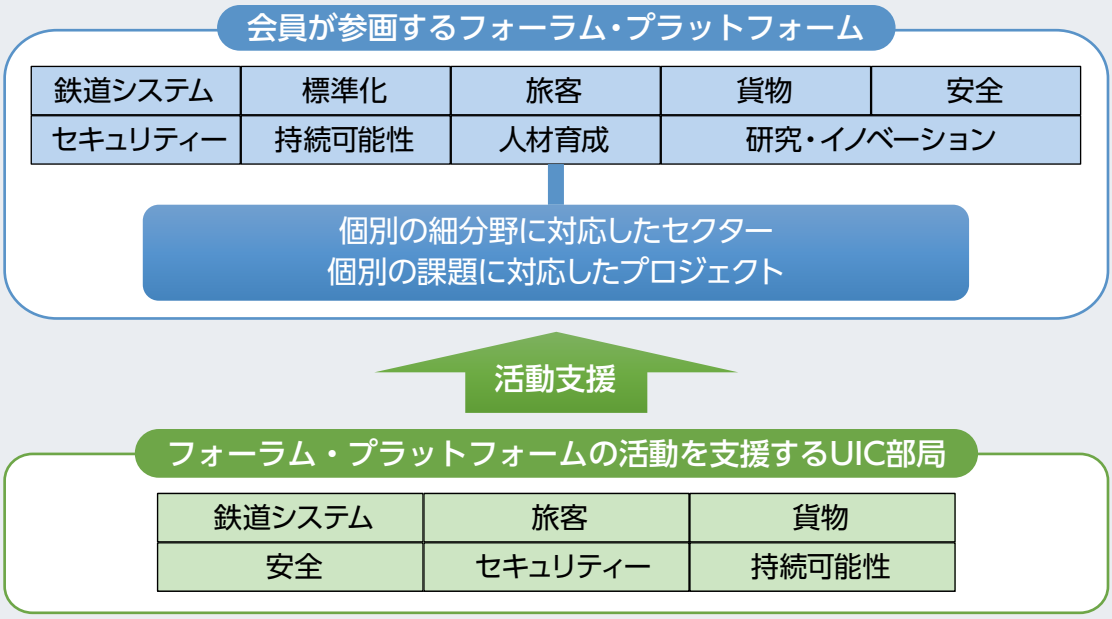

図2　UICにおける活動の構成（文献1から抜粋）

議やイベントの開催，標準化など多岐にわたる活動を行っています。UICの発行する国際標準は，International Railway Solutions（IRS）とよばれ，旧標準UICリーフレットからの更新が順次進められています。

各分野の活動に対応して，UIC内部部局であるDepartmentがあり，各部局に所属するUICスタッフが各フォーラムやプラットフォームの活動を支援しています（図2）。鉄道システム局は車両技術，省エネ，列車のオペレーションなど，貨物局は貨車仕様の標準化，輸送安全性向上，モーダルシフトなど，安全局は踏切・ホームの安全，労働者の安全など，セキュリティー局はセキュリティーに関する技術や規制など，持続可能性局は騒音および振動，大気品質，循環経済などを担当しています。旅客局については後述します。

鉄道総研とUIC

鉄道総研は，賛助会員☞として1997年にUICに加盟しています。これ以降，約3年の任期で職員を1名継続的にUICに派遣し，技術協力や情報収集を進めるとともに，他国の事業者やUICスタッフとの交流をはかっています。過去8人のUIC出向者は鉄道システム局Railway System Departmentなどに派遣され，9人目となる筆者は2022年6月に，初めて旅客局Passenger Departmentに着任しました。

UIC旅客局

筆者の所属する旅客局は，2024年2月時点で局長以下10名のスタッフで構成され，旅客フォーラムに設置された「通勤・地域鉄道」「観光」「駅」「旅客サービス」「都市間・高速鉄道」の各セクター（表1）のプロジェクトマネー

表1　UIC旅客局各セクターの活動

セクター	テーマ，課題，プロジェクトなど
通勤・地域鉄道	都市部における輸送需要増加への対応，モード間連携促進など
観光	観光列車，観光地輸送，保存鉄道，鉄道遺産保護など
駅	駅と都市デザイン，設備管理，商業活動，小規模駅など
旅客サービス	MERITS（共通時刻表データ基盤），OSDM（共通発券プラットフォーム），PASSAGE（移動制約者アクショングループ）など
都市間・高速鉄道	世界高速鉄道会議の運営，高速鉄道データベース，高速鉄道研究に関する大学ネットワーク，夜行列車など

☞ UICの会員資格

一定以上の事業規模を有する鉄道事業者が対象の「正会員」，それ以外の鉄道事業者が対象の「準会員」，鉄道事業者以外の組織が対象の「賛助会員」の3種類があります。

図3　UIC HIGHSPEEDマラケシュ大会
（一番下はマラケシュ駅）

ジャーとして会員の活動を支援しています。筆者はUIC採用の同僚のもと，後述する駅セクターStation Managers Global Group，略称SMGGの業務に従事しています。

旅客局が主催する大規模な国際会議のひとつが，2～3年ごとに開催される世界高速鉄道会議World Congress on High-Speed Rail，通称UIC HIGHSPEEDです。前回は2023年3月にモロッコ・マラケシュで開催され（図3），鉄道事業者の役員および実務者，研究者など48か国から約1,500名が参加しました。モロッコでは北部タンジェから中部の主要都市カサブランカまでの高速鉄道が2018年に開業し，現在マラケシュまでの延伸工事も進められています。まさに高速鉄道会議にふさわしい場所での開催となりました。

駅セクターSMGG

駅セクターSMGGは，欧州を中心とした約20か国の駅管理事業者☞が参画し，「駅と都市デザイン」「設備管理」「商業活動」「小規模駅」の4つのワーキンググループに分かれ，意見交換やノウハウの共有を行っています。最近の個別の活動としては，駅構内の自動販売機や仮設店舗運営に関するアンケート調査，駅における一部業務のアウトソーシングに関する事例収集，駅の分類手法に関する事業者間比較などが行われました。

各ワーキンググループ単位の会合のほか，約3か月ごとにSMGG総会が開催されており，各ワーキンググループの活動状況を共有し参加者全体で意見交換する重要な場になっているとと

☞ **駅管理事業者**

鉄道インフラの管理と列車運行を別会社が行う上下分離方式を採用している国などでは，駅を管理する事業者の形態もさまざまです。ポルトガルやイタリアなどインフラ管理事業者が駅も管理するケース，カナダやアメリカなど列車運行事業者が駅を管理するケース，スウェーデンなど駅管理専門の事業者が存在するケースがあります。

もに，メンバー同士の交流の機会となっています（図4）。

UICにおける筆者の活動

SMGGにおける筆者の主な任務は，プロジェクトマネージャーによるセクター運営の補佐と日本視点のアイデアや技術に関する情報の提供です。これまでに出席したSMGGの会議は19回を数え，日本の鉄道技術の紹介プレゼンテーションを3回，プロジェクトマネージャー代行として会議運営を3回行いました。日本における鉄道を中心とした街づくりなどに対するメンバーの関心が特に強いようです。また2023年10月には，オーストリア・ウィーンで開催された旅客交通に関するイベントWorld Passenger FestivalにUIC派遣団の1人として参加し，街における駅の役割についてUICを代表して講演する機会をいただきました。

鉄道技術に関する情報の収集も筆者の重要な業務です。着任してからこれまでの2年間で，主に欧州内で開催された国際会議および展示会に14回，オンラインワークショップおよびウェビナーに16回出席し，その内容を鉄道総研に報告しています。

おわりに

今年のSMGGの活動は昨年より活発になっています。日本の駅を中心とした街づくりやさまざまな取り組みをさらに広く知っていただくため，情報発信の機会をさらに得ていきたいと考えます。また引き続き国際会議やイベントには積極的に参加し，鉄道技術に関する情報の収集と提供を通じて鉄道総研における研究開発の促進にも寄与していきたいと考えています。

RRR

図4　これまでのSMGG総会と駅視察

文　献

1）UIC：UIC Activity Report 2022, 2023